

箕面市支援教育方針に基づく施策の検証について

令和6年1月18日

令和6年度第2回箕面市支援教育充実検討委員会

■箕面市支援教育方針に係るアンケートについて

＜実施期間＞

令和6年9月2日(月)～10月9日(水)

＜対象＞

校長・副校長、教頭、通常学級担任・教科担任、通級指導教室担当、支援学級担任、支援教育(看護)支援員、その他（生徒指導主事、養護教諭など）

＜回答数＞

248件

《内訳》

●管理職（42件）

校長・副校長：20件

教頭：22件

●教職員（206件）

通常学級担任・教科担任：82件

通級指導教室担当：19件

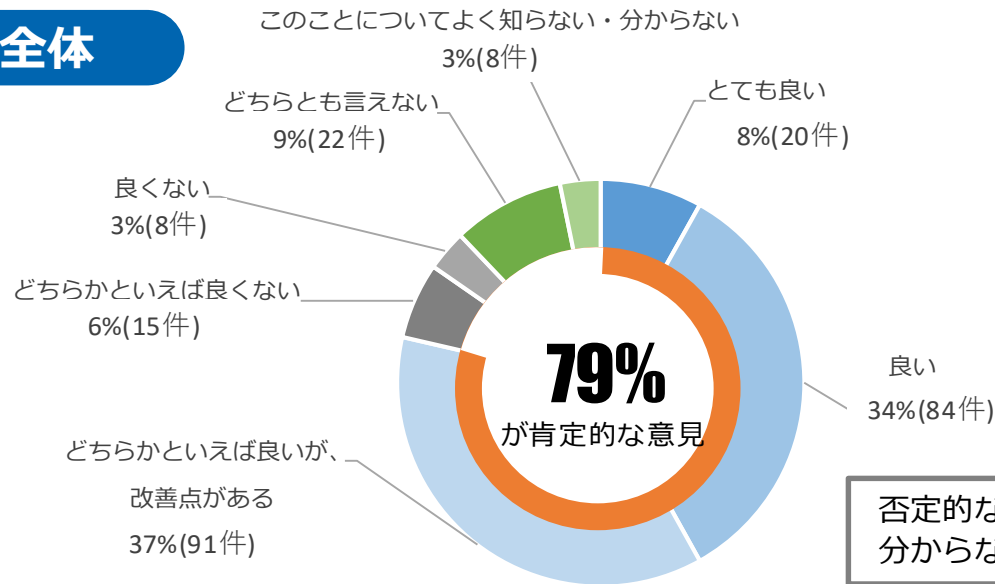
支援学級担任：61件

支援教育(看護)支援員：21件

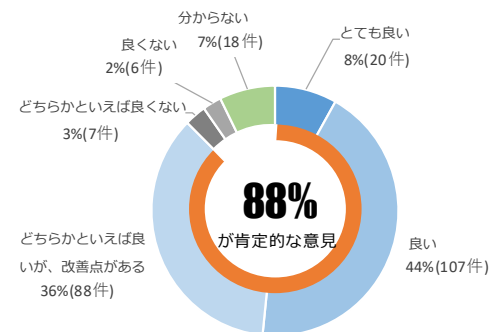
その他（生徒指導主事、養護教諭など）：23件

【1】 1. 箕面市支援教育方針について

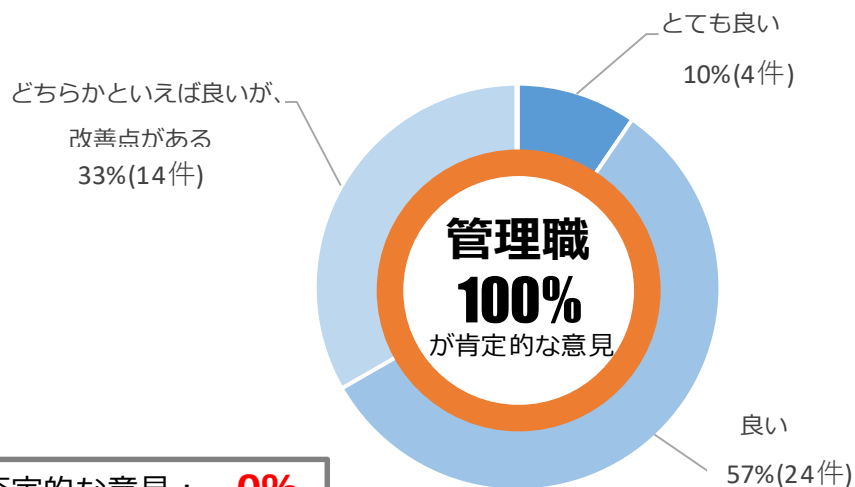
全体



【参考】令和5年度 アンケート結果

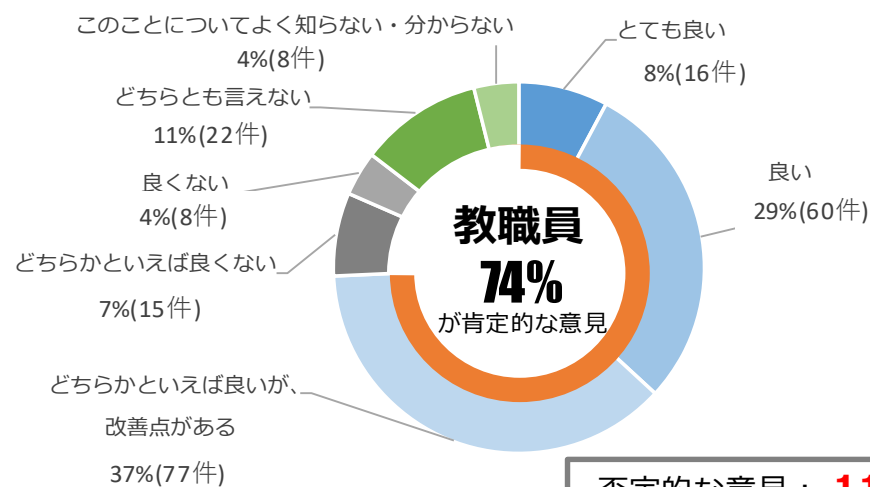


管理職



否定的な意見	0%
分からない	0%

教職員

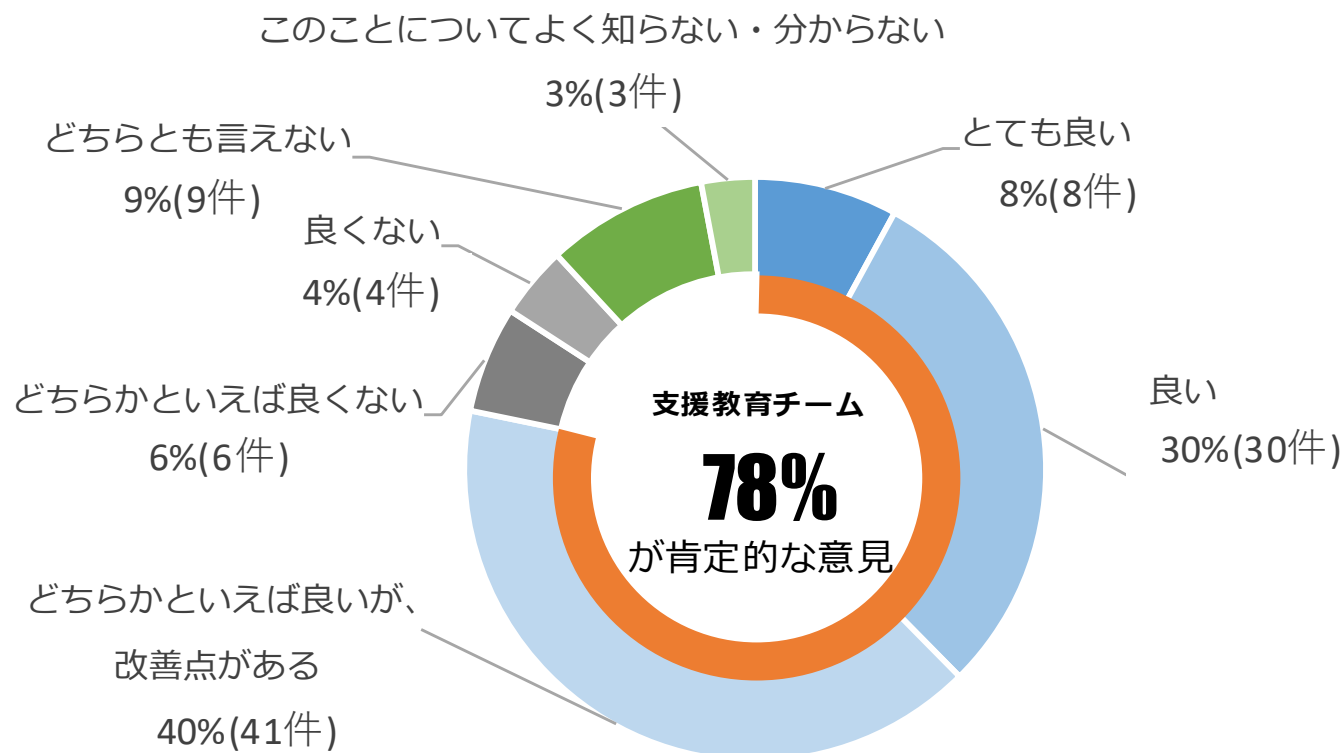


否定的な意見	11%
分からない	15%

【1】 1. 箕面市支援教育方針について

支援教育チーム※

※支援教育チーム：1)通級指導教室担当 2)支援学級担任 3)支援教育(看護)支援員 の回答のみ抽出（以降も同様）



否定的な意見： **10%**
分からない： 12%

【1】 1. 箕面市支援教育方針について

肯定的な意見

- ・ 箕面市支援教育方針に基づいて支援教育を進めることができている。（校長・副校長）
- ・ 自立活動の抽出時間については段階的に対応しているため、大きな混乱は起きていない。（通級担当）
- ・ インクルーシブ教育を中心にした理念を貫いているところが良いと感じる。（通常学級・教科担任）
- ・ 児童生徒や保護者に寄り添う形で良いと感じる。（通常学級・教科担任）
- ・ 目指す支援教育の方針について、改めて明確になったことが良いと感じる。（教頭）
- ・ 困り感のある児童生徒を全員で支援していくという方向性が確立してよかったと感じる。（校長・副校長）

改善点等

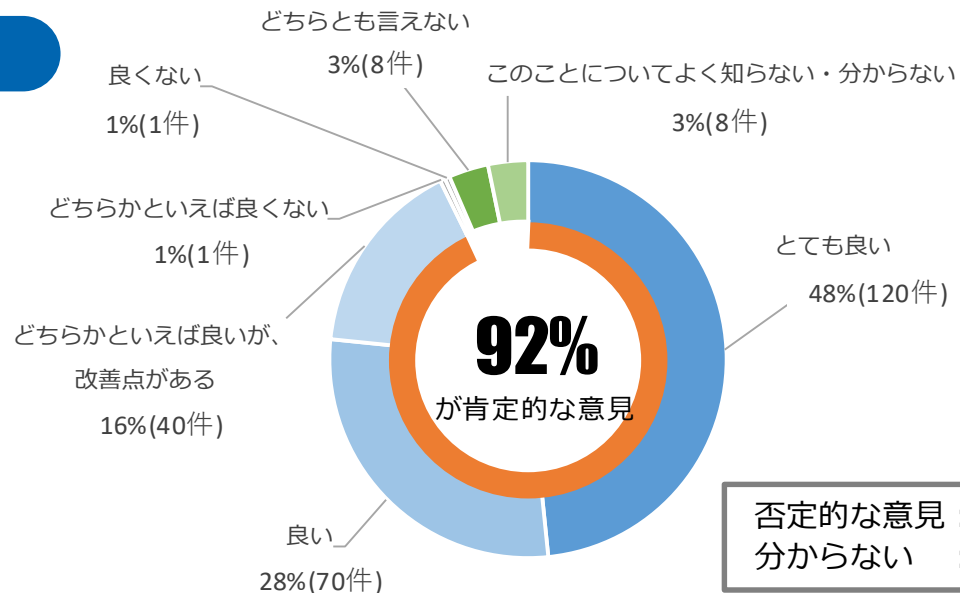
- ・ 一斉指導だと勉強が入りづらいなど、学習面のみに困難を抱えている児童生徒について、今後支援の対象から外れてしまう可能性があるのか、曖昧な部分があることと、現在、支援している児童生徒のニーズと合っているのかが難しいと感じる。（支援担任）
- ・ 通級指導教室が全校に配置されたことにより、各校1名、通級指導教室担当者が配置となり、校内に専念できる教員が増えたが、通級指導教室を利用する児童生徒が多いことが課題である。（通級担当）
- ・ 箕面市支援教育方針自体は良いと思うが、定着するまでに時間がかかるため、支援教育担当者以外にも定着させていく必要があると感じる。（支援コーディネーター）

■ 検討の際の視点

支援学級に在籍する児童生徒への、個に応じた「特別の教育課程」の内容・時間数を実施していくために必要なこととは

【2】 2-1. 通級指導教室担当者の複数配置について

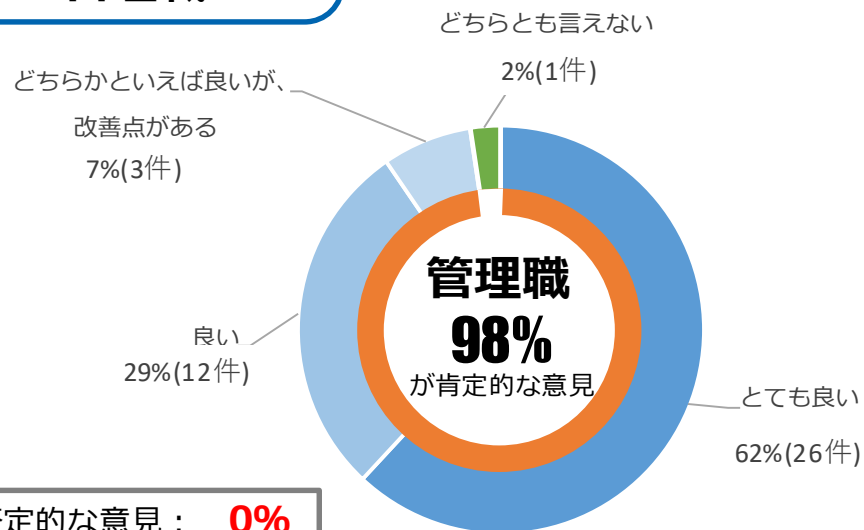
全体



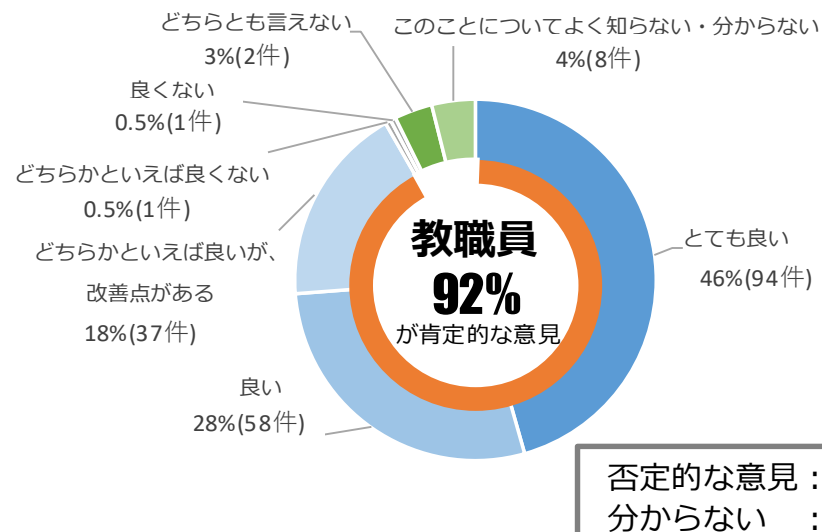
【参考】令和5年度 アンケート結果

※令和6年度 新規項目

管理職

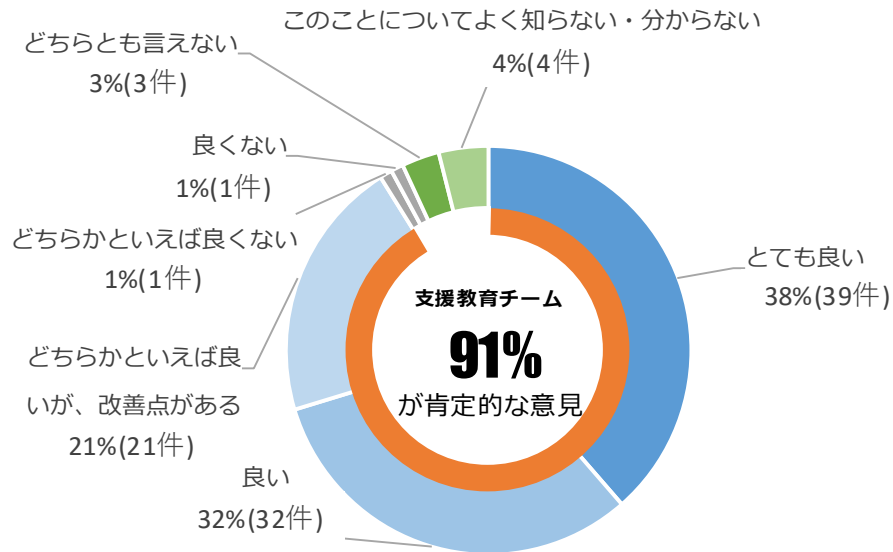


教職員



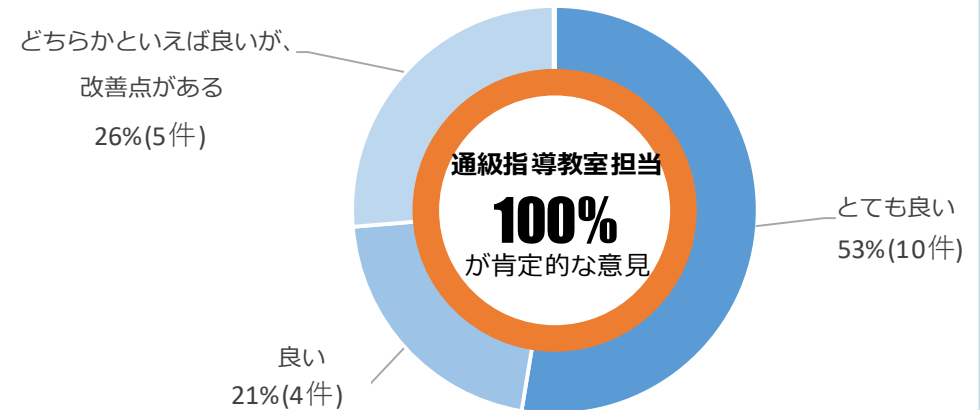
【2】 2-1. 通級指導教室担当者の複数配置について

支援教育チーム



否定的な意見 : 2%
分からない : 7%

通級指導教室担当



否定的な意見 : 0%
分からない : 0%

【2】 2-1. 通級指導教室担当者の複数配置について

肯定的な意見

- ・通級指導教室担当者が複数人配置されていると、相談しながら指導を進めていくことができる。（通級担当）
- ・通級指導教室担当者が増えることで、支援教育を学ぼうとする教員が増え、困り感のある児童生徒が安心して校内で過ごせることに近づいてきていると感じる。（校長・副校長）
- ・通級指導に児童生徒をつなげやすくなったことが良いと感じる。（通常学級・教科担任）
- ・通級指導教室を利用する児童生徒が増えていくと予想されるため、通級指導教室担当者を複数人配置するなど、受け入れる体制は必要だと感じる。（支援担任）

改善点等

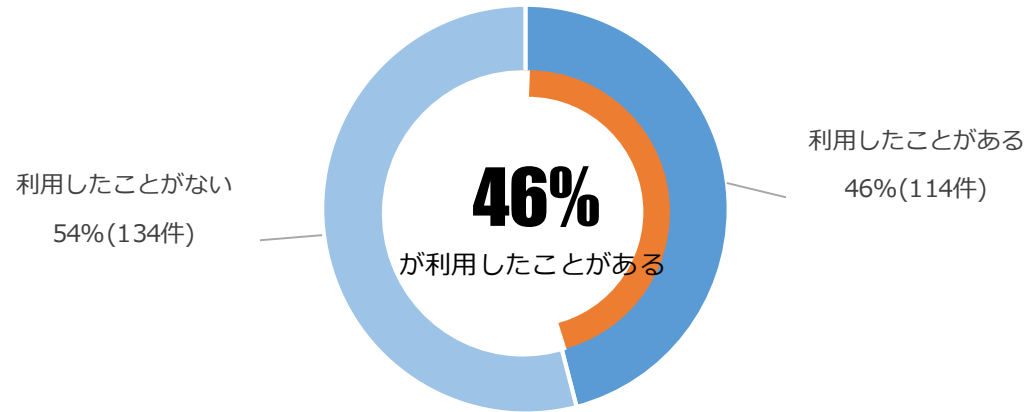
- ・複数人配置することは良いが、兼務している担当者が、移動、教材共有、情報共有、本務校での校務分掌などにおいて、複数校を回る形が難しいと聞いているため、兼務ではない形になると良いと感じる。（通常学級・教科担任）
- ・兼務のため、児童生徒の情報が抜けたり、行事等で振り替えをしなければいけなかったりする時に、難しい場合がある。兼務校で、2 in 1 のパソコンが使えないので不便である。（通級担当）

■ 検討の際の視点

通級指導教室担当者の「複数配置」により、できること、もたらす変化について

【3】 3-1. LITALICO教育ソフトを利用したことがあるか

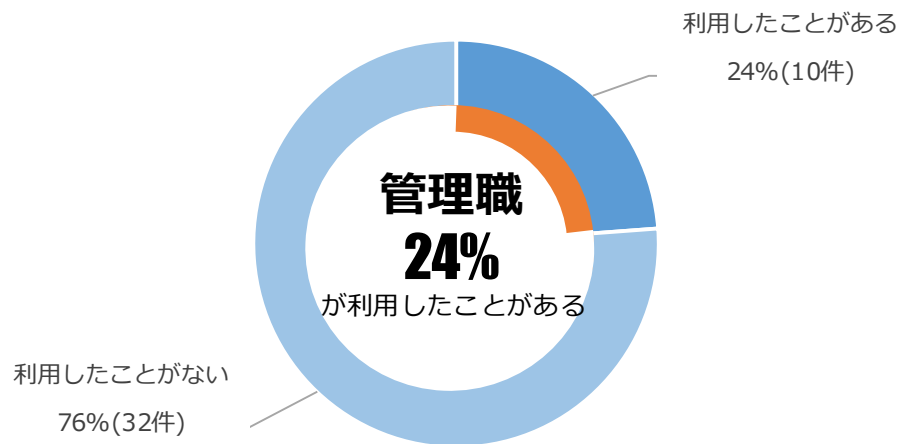
全体



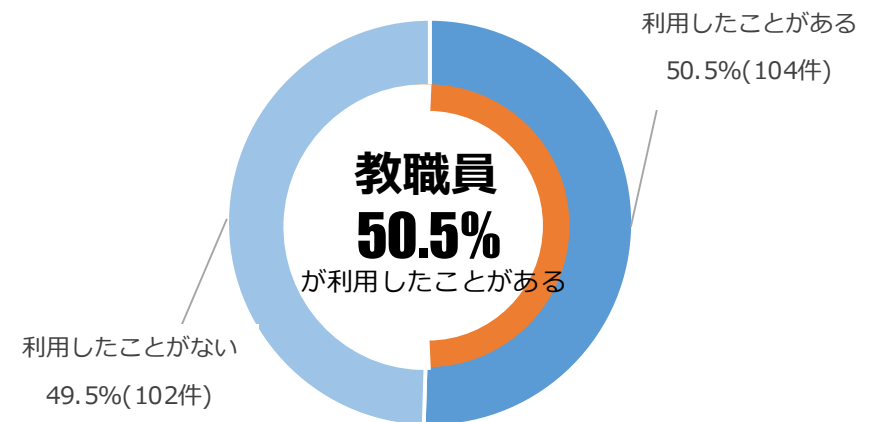
【参考】令和5年度 アンケート結果

※令和6年度 新規項目

管理職

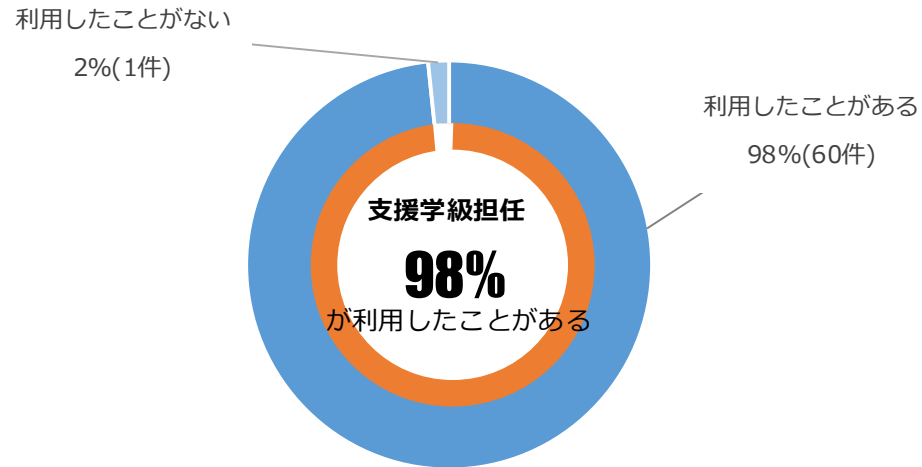


教職員

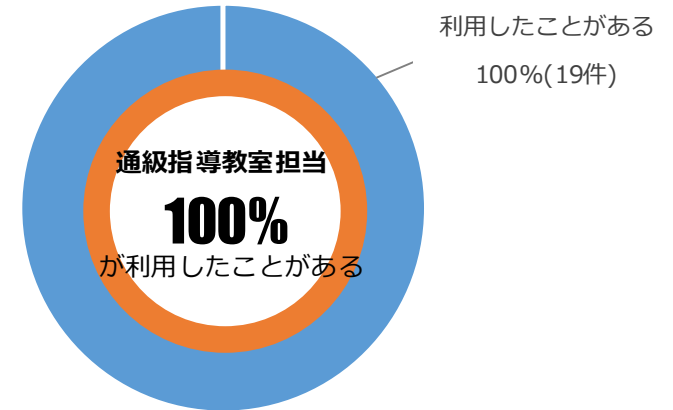


【3】 3-1. LITALICO教育ソフトを利用したことがあるか

支援学級担任



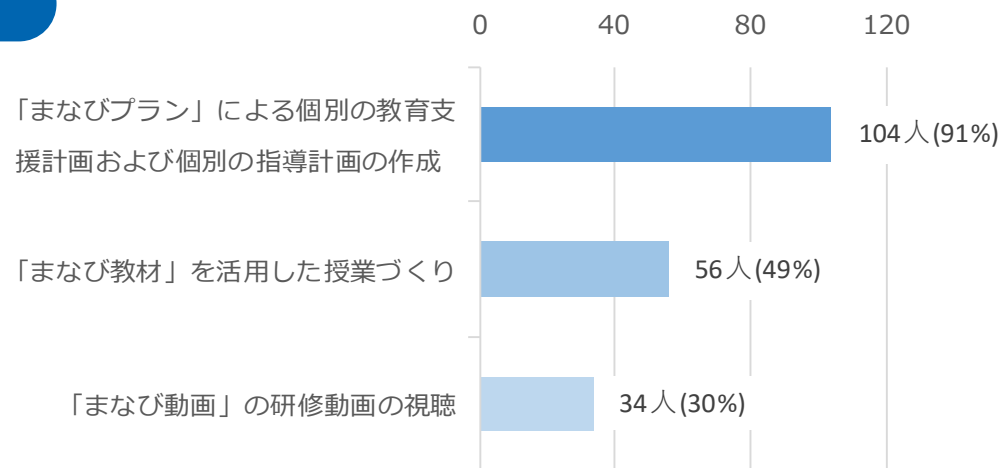
通級指導教室担当



【4】 3-2. LITALICO教育ソフトで何を利用したことがあるか

※3-1.で「利用したことがある」と回答した人のみ回答（複数回答あり）

全体

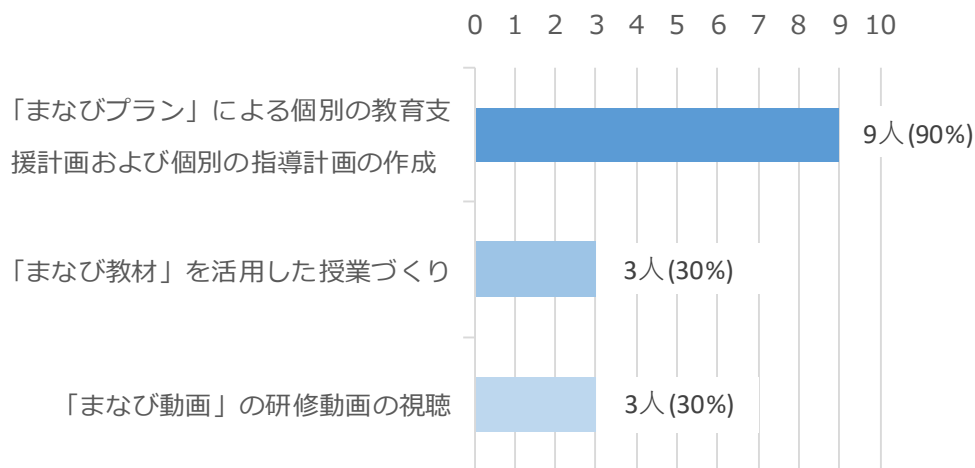


※全体のうち「利用したことがある」と回答した人数：114人

【参考】令和5年度 アンケート結果

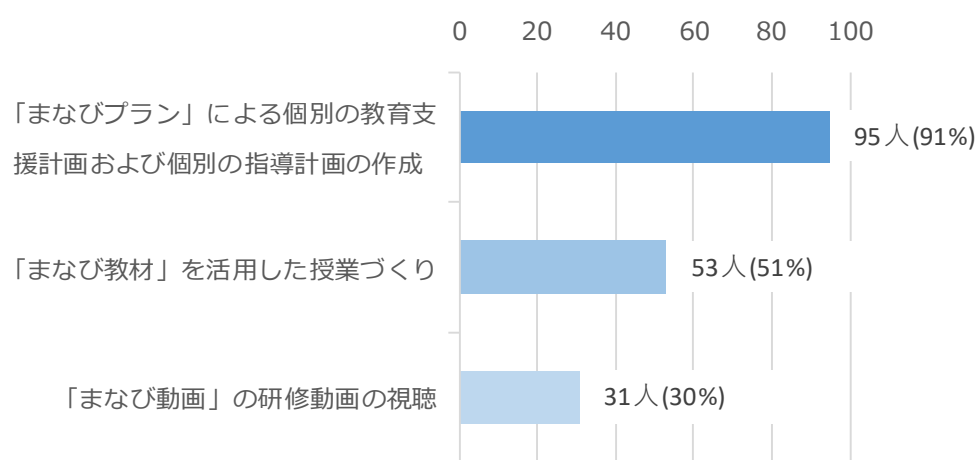
※令和6年度 新規項目

管理職



※管理職のうち「利用したことがある」と回答した人数：10人

教職員

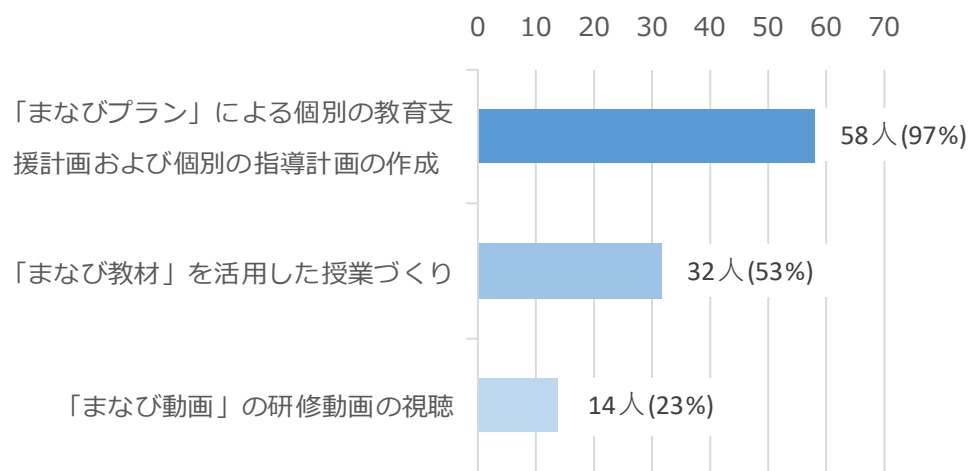


※教職員のうち「利用したことがある」と回答した人数：104人

【4】 3-2. LITALICO教育ソフトで何を利用したことがあるか

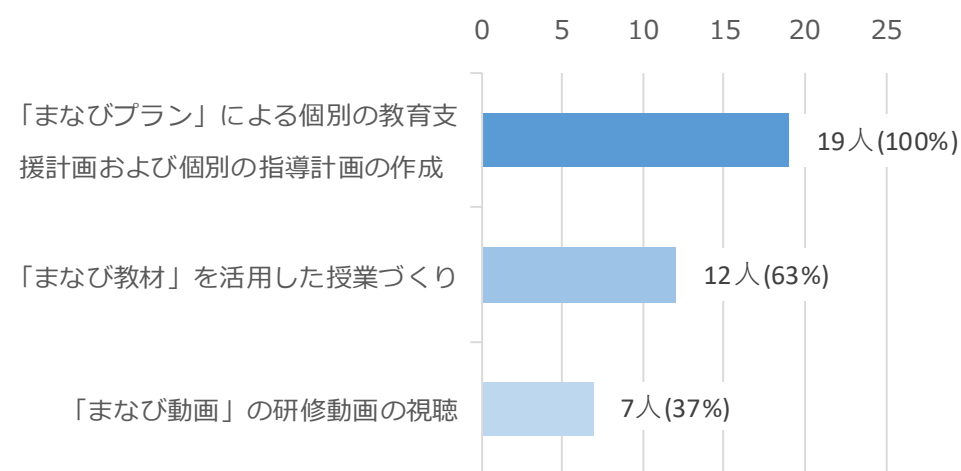
※3-1.で「利用したことがある」と回答した人のみ回答（複数回答あり）

支援学級担任



※支援学級担任のうち「利用したことがある」と回答した人数：
60人

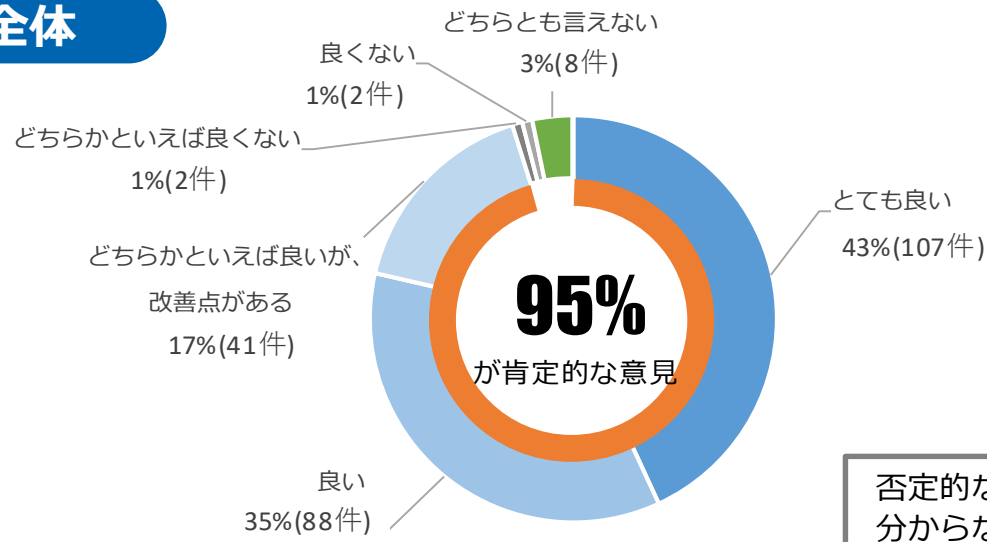
通級指導教室担当



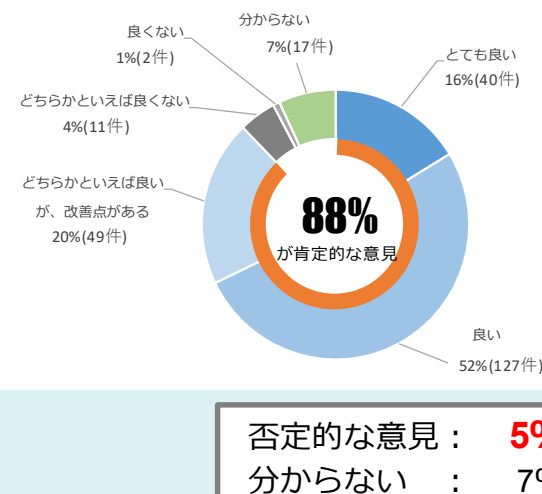
※通級指導教室担当のうち「利用したことがある」と回答した人数：
19人

【5】 6. 合理的配慮や支援教育に係る研修の充実について

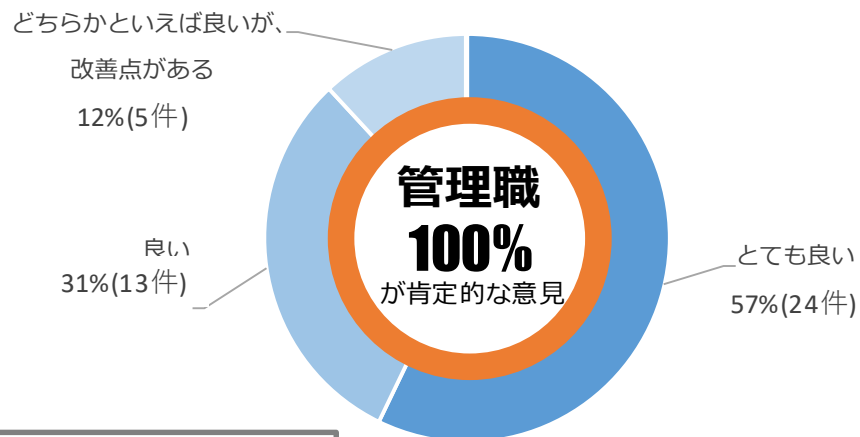
全体



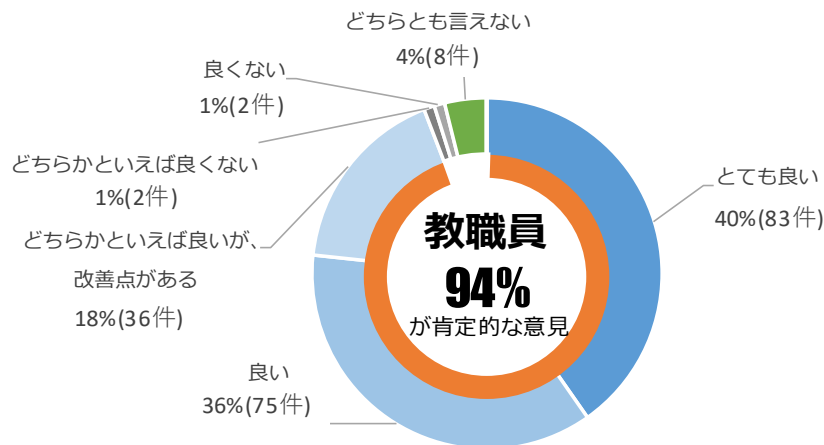
【参考】令和5年度 アンケート結果



管理職

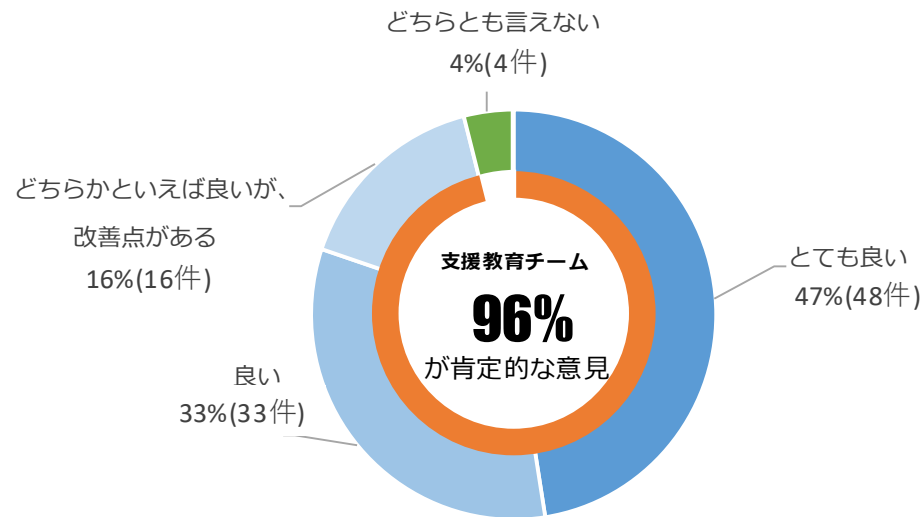


教職員



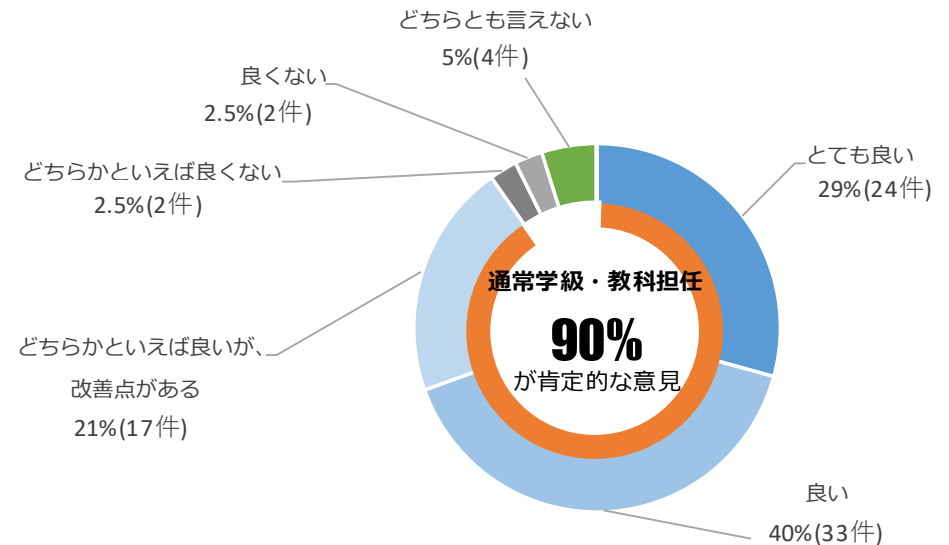
【5】 6. 合理的配慮や支援教育に係る研修の充実について

支援教育チーム



否定的な意見 : 0%
分からない : 4%

通常学級・教科担任



否定的な意見 : 5%
分からない : 5%

【5】 6. 合理的配慮や支援教育に係る研修の充実について

肯定的な意見

- ・コアな研修・全体での研修と、きちんと考えて組まれているため、支援研修の充実はずばらしいと感じる。（教頭）
- ・地域の学校における支援教育の在り方について、合理的配慮の対象は、全児童生徒への学習保障が前提でなければならないため、研修を充実させることは必要である。（教頭）
- ・教員各々の考え方や受容感で対応が大きく変わらないために、全ての教員が研修する必要性があると感じる。（校長・副校長）
- ・何度聴いても、新たな気づきがある分野であり、人権教育とともに充実させてほしいと感じる。（通常学級・教科担任）
- ・支援教育に関して理解が十分でない教職員がまだいるため、研修を充実させることは大事である。（支援員）

改善点等

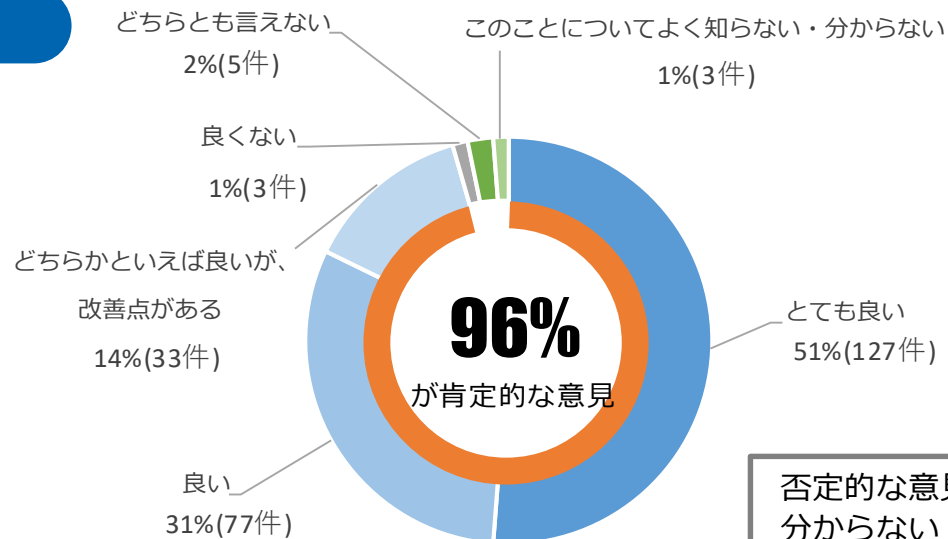
- ・支援に関わる教員以外は自分事として考えていないように感じることもある。（支援コーディネーター）
- ・集合開催で研修を行ってほしい。（支援担任）
- ・長期休暇中の研修の充実や、他市への研修をもっと行ってほしい。（通常学級・教科担任）
- ・教科担任や通常学級の担任向けの授業のUDや集団づくりなどの研修を充実させるべきである。（支援コーディネーター）

■ 検討の際の視点

学校内における合理的配慮に対する理解と意識、そして課題について

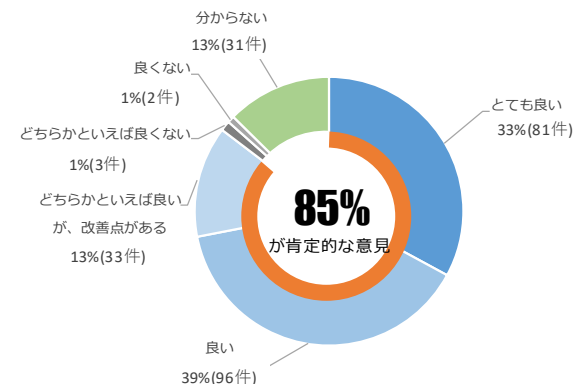
【6】 7. 支援教育コーディネーターの加配について

全体



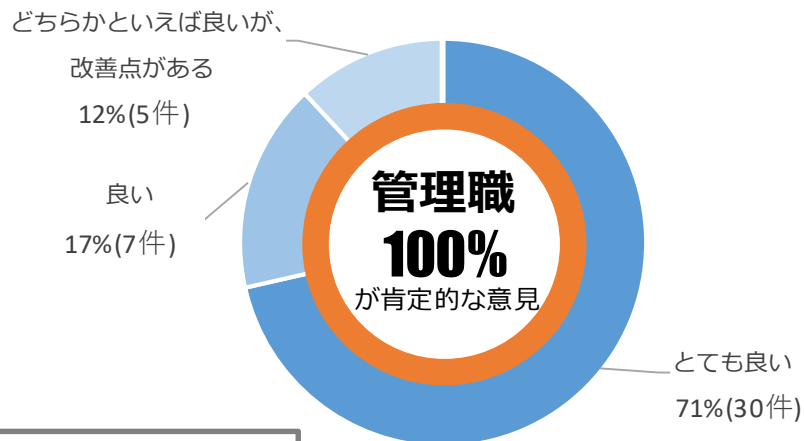
否定的な意見 : **1%**
分からない : **3%**

【参考】令和5年度 アンケート結果



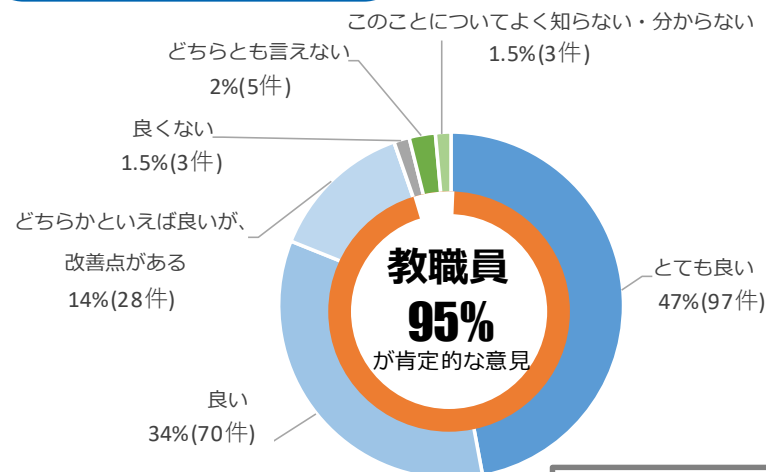
否定的な意見 : **2%**
分からない : **13%**

管理職



否定的な意見 : **0%**
分からない : **0%**

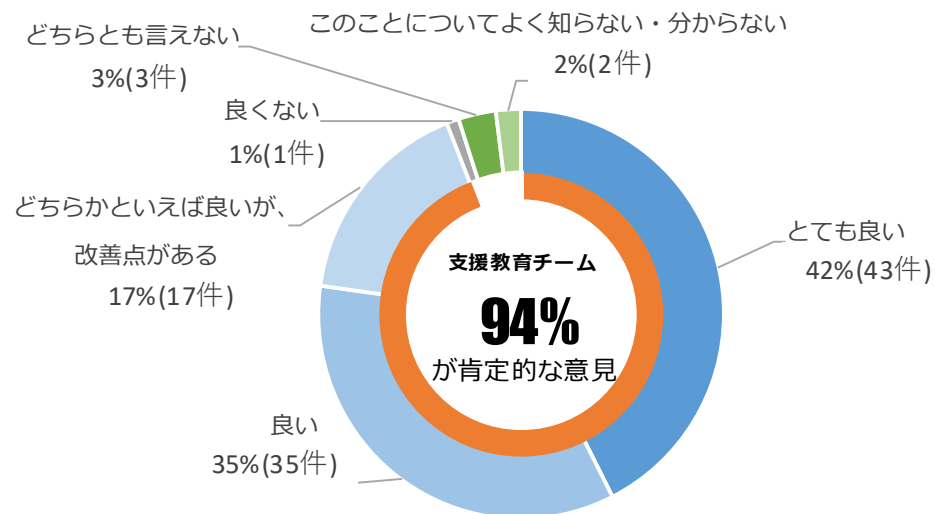
教職員



否定的な意見 : **1.5%**
分からない : **3.5%**

【6】 7. 支援教育コーディネーターの加配について

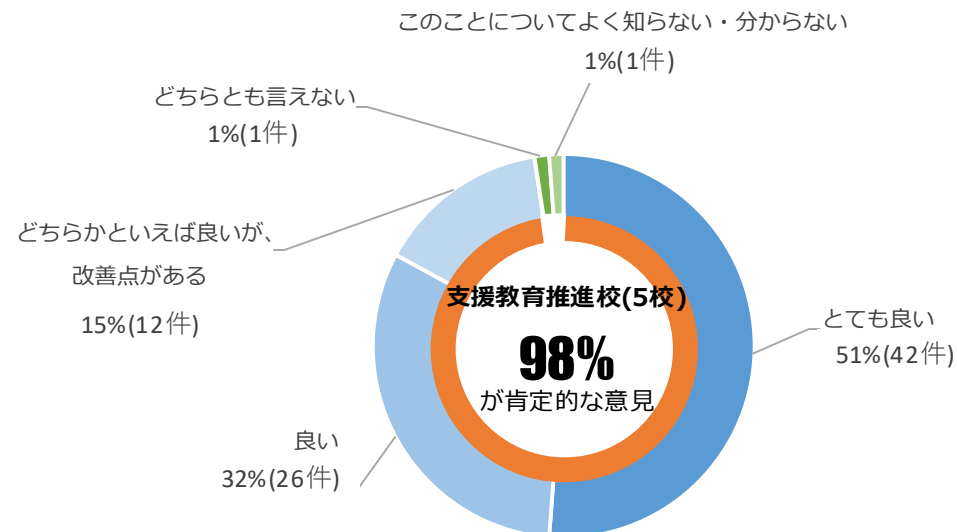
支援教育チーム



否定的な意見 : **1%**
分からない : 5%

支援教育推進校(5校)※

※とどろみの森学園、中小、豊川南小、一中、五中



否定的な意見 : **0%**
分からない : 2%

【6】 7. 支援教育コーディネーターの加配について

肯定的な意見

- ・ 経験が豊富な先生が加配されることは、必要なことだと思う。（支援員）
- ・ さまざまな子どもを養護教諭が抱え、保健室経営にも支障をきたしかねない状況に支援教育コーディネーターの先生が配置され、別室の環境整備等一緒に手立てを考えてもらった経験があり、救われた。（養護教諭）
- ・ 全体を俯瞰的に見てくれたり、アドバイスをしてくれたりしているので、支援が均等にいきわたっている。（校長・副校長）
- ・ 学校全体の支援教育体制をレイアウトするためのキーパーソンとなるので全校配置が望ましいと感じる。（教頭）
- ・ 支援担任と兼務しないことで、自由に動けるため、校区連携や外部との連携などが行いやすくなった。（支援コーディネーター）

改善点等

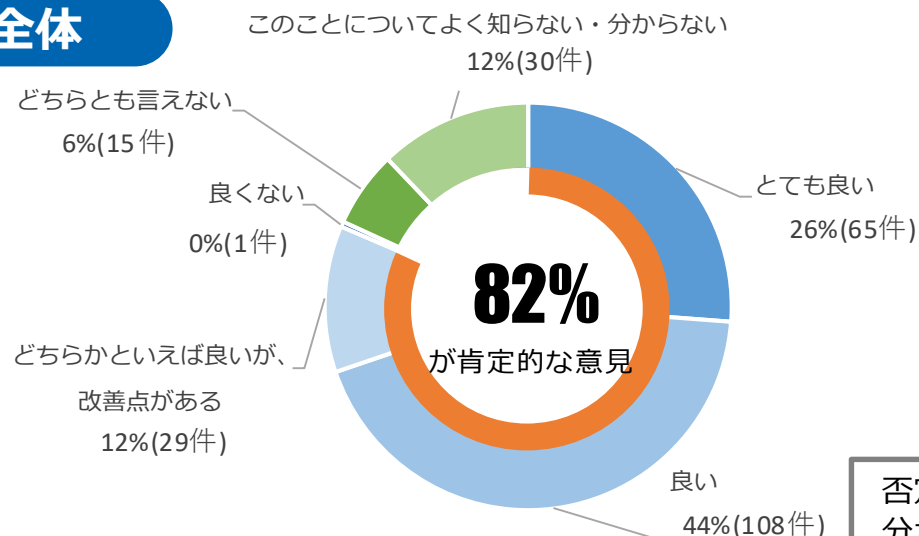
- ・ 支援教育コーディネーターが支援学級担任の仕事を兼務している。（通常学級・教科担任）
- ・ 学校によって、支援教育コーディネーターの役割や仕事が違うため、統一してほしい。（通常学級・教科担任）
- ・ 専任の支援学級担任の人員が確保されていれば、コーディネーター業務に注力できるが、専任ではなく担当の児童生徒を受け持っていると感じる。（支援担任）

■ 検討の際の視点

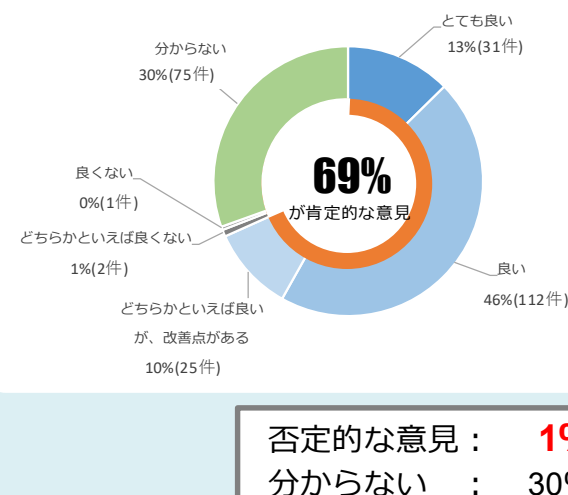
- ① 専任加配することで生まれる効果、成果について
- ② 専任加配がない場合にできる工夫とは

【7】 12. 「実態を把握する期間」の設定について

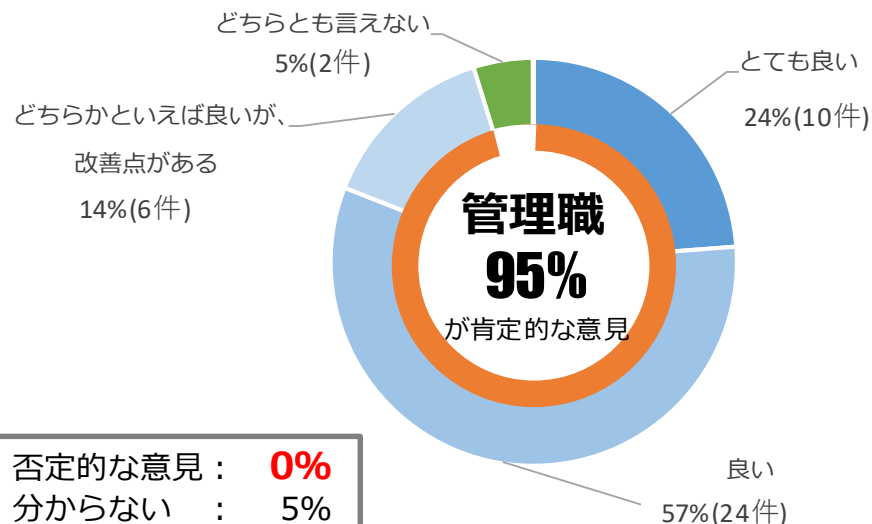
全体



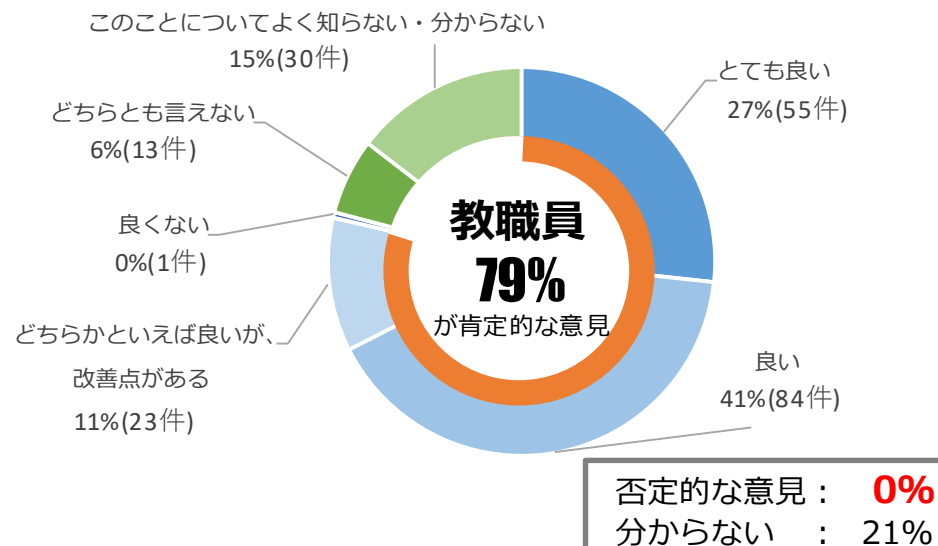
【参考】令和5年度 アンケート結果



管理職

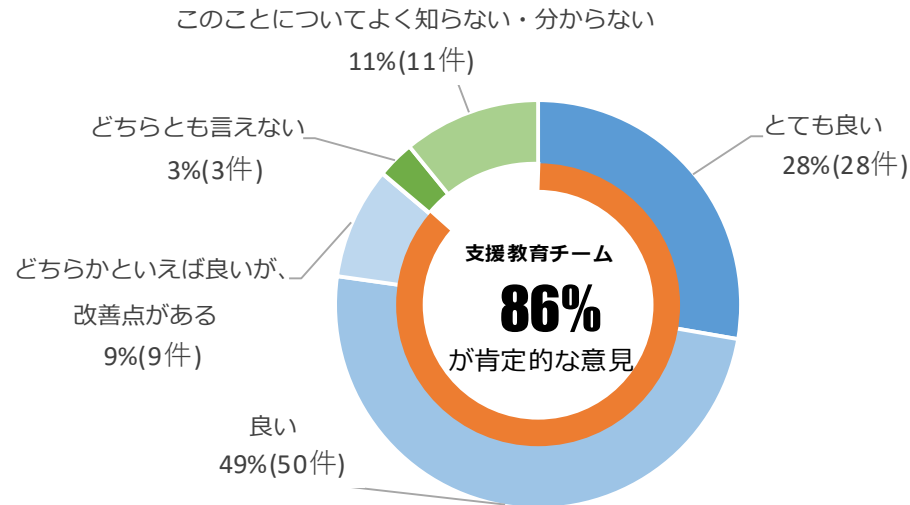


教職員



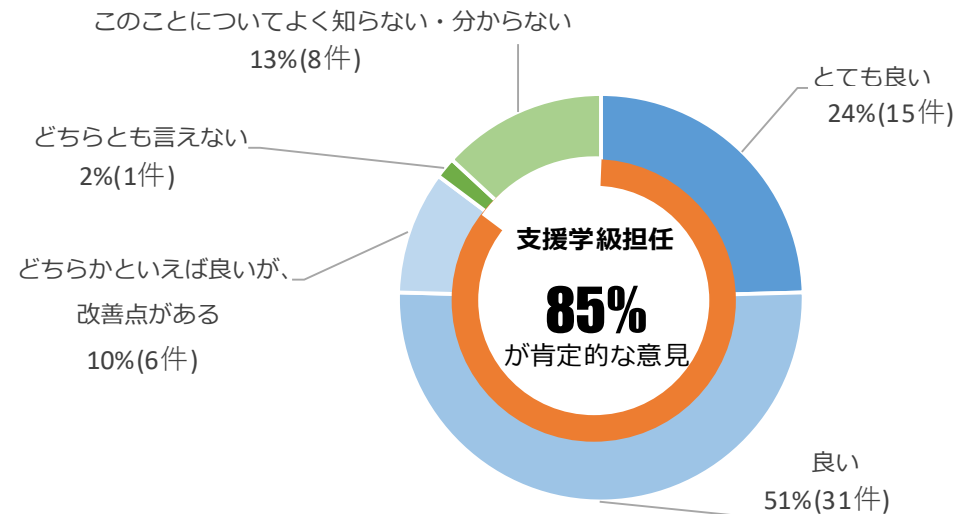
【7】 12. 「実態を把握する期間」の設定について

支援教育チーム



否定的な意見 : **0%**
分からない : 14%

支援学級担任



否定的な意見 : **0%**
分からない : 15%

【7】 12. 「実態を把握する期間」の設定について

肯定的な意見

- ・継続的に成長を見守るため、期間を延長する方が良いと感じる。（支援員）
- ・児童生徒が新しい環境に慣れるために頑張っているため、じっくりと実態を把握する期間としたい。（支援担任）
- ・引継ぎ資料は個々によって基準が違い、曖昧であるため、実態を把握する期間を設定することは、「思っていたのとは違う」が少なくなると感じる。（支援員）
- ・情報共有で終わらず、指導方法の工夫などを共有し、円滑に学びの保障が出来るようになることが理想である。（教頭）
- ・幼稚園と保育園とで環境が大きく変わり、引継ぎでは出てこない行動をすることがあるため、実態を把握する期間は大切な時間であると感じる。（校長・副校長）
- ・入学後は緊張や不安があるので良いと感じる。（支援員）
- ・正しいアセスメントにつながりやすいと感じる。（支援担任）
- ・「実態を把握する期間」と決定してもらえたことは、現場としては助かった。（支援コーディネーター）

改善点等

- ・小学校を卒業した後、どのように育っていくのかを知る必要があるため、小学校の先生が中学校に見学に来ることを勧めたい。（通常学級・教科担任）
- ・教職員や保護者への周知が徹底されていないと感じる。（校長・副校長）

■ 検討の際の視点

- ①何を、どのくらいの期間、どういう視点で見るとよかったか
- ②期間設定のポイントについて